

日々の田高「桐始結花（桐はじめて花を結ぶ）」

7月22日(月) 「大暑」のはじまり

今日7月22日(月)は、二十四節気(春夏秋冬を6つに分けた季節を表す言葉)「大暑」のはじまりです。(気づきにくいのですが、本校の「ぼろにあ手帳」にも二十四節気が掲載されています…)

今日からはじまる夏季休業、「大暑」の間(「立秋」までの約15日間)は暑さも本番になります。そして、二十四の節気(約15日間)をさらに3分割したものを七十二候といい、本校の校章「桐」に関するものが、七十二候の中にあります。それが、今日からの5日間、七十二候「桐始結花(桐はじめて花を結ぶ)」です。

昔の人々は二十四節気、七十二候によって季節を敏感に察知して、農作業やさまざまな伝統行事の指標としてきました。

さて、この「桐始結花」の意味を調べてみると…「桐が実を結び始める時期」と説明されていることが大半です。しかし、本校にたくさん植えられている桐を観察すると、花が咲き終わった5月下旬から6月上旬には実がつき始めており、この時期はその実がかなり大きくなっています。



5月上旬にきれいに咲き揃う桐の花

さらに調べてみると「実を結ぶ時期」という説明は誤りで、文字通り「花を結ぶ」=蕾ができる時期というのが本来の意味のようです…

実際にそうなのか？

今朝、本校グラウンド入口付近の桐を観察してみると、来年5月に咲くであろう、ラクダ色のかわいらしい蕾がしっかりとついていました！

桐はその年に咲いた花がつけた実と、来年咲く花の蕾が何か月も同じ木についている、とても不思議な木だったのでですね。

改めて先人たちの自然に向けられた細やかな観察眼に感服するとともに、ホンモノの桐を観察することで、七十二候「桐始結花」の真実を知ることができたことをうれしく思いました。

田園調布高校に赴任することがなければ、きっと一生知らないままだったと思います。生徒の皆さん全員と会えるのは9月の始業式になりますが、どこかの機会でも、本校のシンボル「桐」のお話をしたいと思います。



7月22日のグラウンドの桐